

「コロナ禍でリモートのコミュニケーションが一般的になったことで、広大な面積を持つ北海道の可能性はさらに広がっている」。アクサ生命保険の松田貴夫取締役専務執行役員(53)はそう力を込める。

同社は東日本大震災を受けたリスク分散の一環として2014年、札幌本社を設立し、東京との2本社制を敷いている。



リモート活用で収入増

2本社の連携推進のため19年に構築したリモートワークのシステム環境が新型コロナウイルス禍で奏功。リモート営業の活用などにより、22年3月期の保険料等収入は前年同期比12・3%増の7350億円と大きく伸ばした。

中小企業の従業員のメンタルケアを遠隔で支援する「産業界プログラム」や、資産形成のオンラインセミナー開催などにも注力。「デジタルを活用して、離れた地方の都市にもさまざまなアドバイスを提供したい」と話す。

(高橋 祐一)